

令和元年度 第46回周南地区文化祭

特 別 展

令和元年台風15号
被害から考える防災

台風19号の影響により中止となった令和元年度第46回周南地区文化祭にて
展示する予定であった特別展の展示資料を、今後の参考資料となるように編集し
たものです。

目 次

1	はじめに	2
2	台風15号の概要	2
3	周南地区の動き	3
4	被災中の生活	9
5	災害に備えて	13
6	おわりに	16
	資料編	17

1 はじめに

令和元年 8 月 30 日未明にマーシャル諸島近海で発生した台風 15 号は、9 月 9 日に関東地方に上陸し、千葉県を中心に各地で甚大に被害が出ました。君津市や周南地区でも長期間の停電・断水、強風により瓦が飛ぶ等の建物への被害や倒木が多数ありました。

地域に長く生活されている方からも、「こんなに大きな災害があったのは初めてだ」と話すほど、君津市では過去に例をみない甚大な被害、生活への大きな影響がありました。しかし、その記憶も時間とともに薄れてしまいがちです。

そこで、本紙では地域で起こった台風 15 号の被害状況や被災生活の声を記録し、今後の防災を考える機会となるよう作成しました。

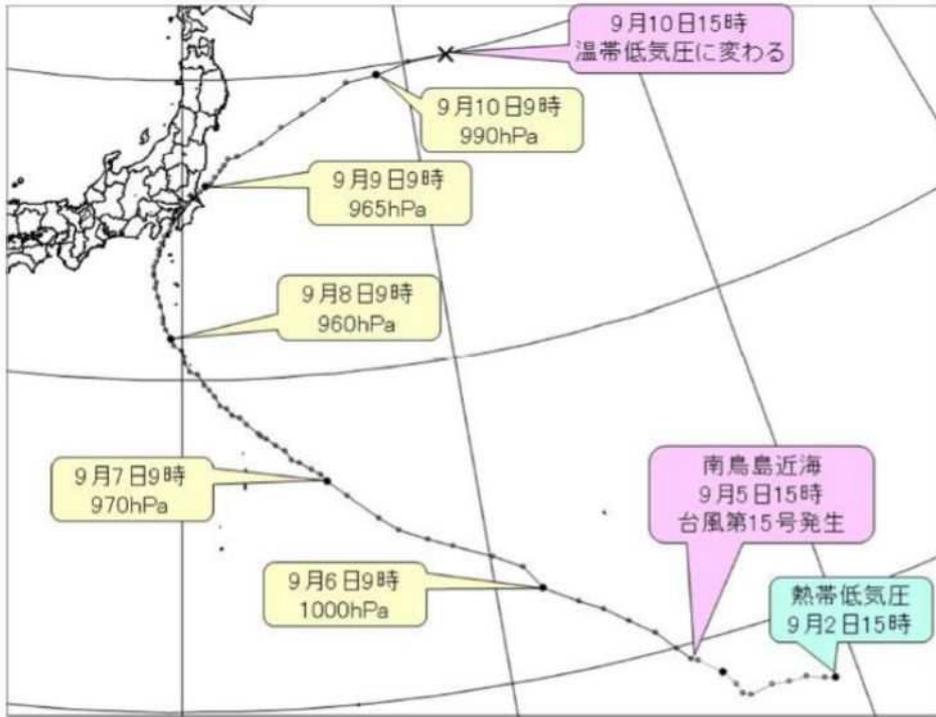
2 台風 15 号の概要

9 月 5 日 15 時、南鳥島近海で発生した台風第 15 号は、発達しながら北西から西北西に進み、6 日 21 時には暴風域を伴い、7 日 6 時には強い台風となった。その後も台風は発達しながら小笠原諸島から伊豆諸島南部を北西に進み、8 日昼過ぎには次第に進路を北よりに変え、8 日 21 時には非常に強い台風となった。台風は勢力を保ったまま、伊豆諸島北部を北北東に進み、9 日 3 時前に三浦半島付近を通過し、9 日 3 時には強い台風となり、東京湾を北北東に進んだ。台風は 9 日 5 時前に千葉市付近に上陸後、千葉県から茨城県を北東に進み、関東の東の海上に進んだ。この台風は雲域が小さかったため、台風本体の接近時に風や雨が急激に強まる特徴があった。

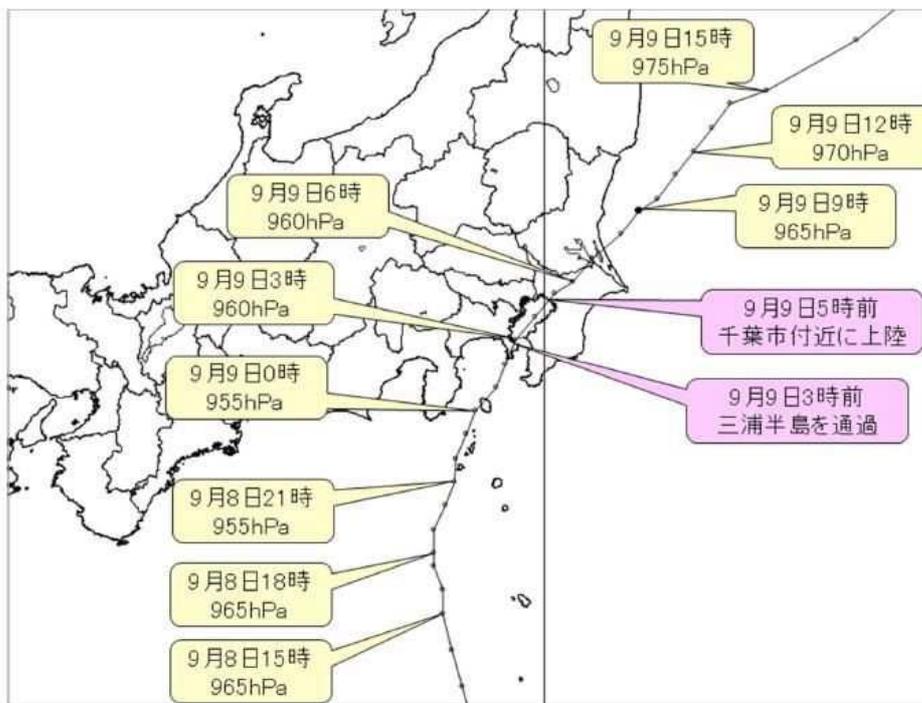
9 月 8 日 10 時から 9 日 24 時までの総降水量は坂畑で 237.5 ミリ、牛久で 221.5 ミリ、大多喜で 212.0 ミリ、鋸南で 211.0 ミリを観測した。また、最大風速は千葉で 35.9 メートル、成田で 29.6 メートル、勝浦で 29.5 メートルを観測し、千葉、成田で通年の極値を更新した。最大瞬間風速は千葉で 57.5 メートル、木更津で 49.0 メートル、館山で 48.8 メートルを観測し、千葉、木更津、館山で通年の極値を更新した。また、海上では 9 月 8 日から波が高く、8 日夜遅くには猛烈なしけとなった。

気象の状況

(台風経路図 9月2日15時～9月10日15時)



台風第15号 経路図（日時、中心気圧（hPa））速報解析（東京管区気象台発表資料より）
※点線の経路は熱帯低気圧時の経路を示す



台風第15号 経路図（日時、中心気圧（hPa））速報解析 拡大

3 周南地区の動き

台風15号により、8日12時58分に波浪警報、16時31分に暴風警報が発表された。17時には周南公民館を含む市内の公民館等の8施設が「自主避難所」として開設された。

周南公民館では台風通過前の8日は避難者が0名であったが、台風通過中(9日2時頃)に周南地区も停電や断水になった。通過後の9日、明るくなってくると各地の被害状況が明らかになってきた。強風により物が飛んで建物が破損したり、瓦が飛ぶ等の住宅に被害があったり、倒木や冠水により道路の寸断される等、ライフラインが麻痺してしまった。市内の停電・断水の状況は図の通り(各自治会へのアンケートによる)。

午後になると、周南公民館避難所では日暮れに備えて避難されて来る方、物資や情報を求めてくる方が多くいた。10日以降も、携帯電話等のバッテリーの充電や物資を求めてくる方が多く来館した。また、この間、公民館の駐車場では給水車が待機し、飲料水を配布していた。



自主避難所となった周南公民館



ロビーにて災害情報をまとめた掲示板



ロビーにて物資の配布



駐車場では給水が行われた



災害時公衆電話が設置された



防災倉庫に備蓄してあった物品を活用

図1 台風15号 各自治会の停電・断水の復旧日（各自治会へのアンケート結果による）

自治会	復旧日	9/9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
宮下	停電																			
	断水	無し																		
山九宮下社宅	停電																			
	断水	A棟のみあったが、会社で給水した。																		
小山野	停電																			
	断水			※通水後、数日間滞りがあった																
常代	停電																			
	断水	無し																		
浜田重工社宅	停電																			
	断水	無し																		
日鉄テックエンジ常代	停電																			
	断水																			
浜子	停電																			
	断水	無し																		
六手	停電																			
	断水			※通水後、2日間滞りがあった																
皿引	停電																			
	断水																			
尾車	停電																			
	断水																			
草牛	停電																			
	断水																			
馬登	停電																			
	断水																			
大山野	停電																			
	断水																			
作木	停電																			
	断水																			
山高原	停電																			
	断水																			
	停電																			
	断水																			

※停電・断水は自治会内の住宅で最も遅い日（断水は水道水の状況）を、各自治会にアンケートのご協力いただいた内容を記載しています。また、聞き取りでの情報のため多少の誤差があります。



電線の復旧のため他県から多くの電力会社の作業車が駆けつけた（六手）
撮影：大濱 利佳氏



停電中の生活の様子 撮影：小川善彦氏

各自治会の被害状況（各自治会長へのアンケート調査による）

- ▼宮下・・・住宅被害戸数 162 戸。春日社社、参道、倒木及び社殿の傾き。カーブミラー倒壊 1 件。
- ▼山九宮下社宅・・・無し
- ▼小山野・・・自治会施設（青年館）の屋根瓦、軒先トタン、トヨの一部破損。エアコン室外機横転。禅定院屋根一部破損（雨漏れ）。波の伊八の彫刻物取り外しし保存。一般家屋一部破損約 5 戸。
- ▼常代・・・道路 2ヶ所が倒木により倒木により通行不可。住宅屋根破損 1 戸、その他瓦やトタン等破損多数。公会堂の屋根トタン破損。神社屋根破損
- ▼浜田重工社宅・・・バス停や屋根の飛散。自転車置場屋根飛散。独身寮ベランダ隔板破損。自動販売機横転。
- ▼日鉄テックスエンジ社宅・・・駐輪場の屋根や寮のダクトが飛び車破損。窓ガラスの破損。軽自動車風でずれる。
- ▼浜子・・・熊野神社の鳥居が全壊。建暦寺の屋根一部破損。
- ▼六手・・・住宅の屋根等一部破損約 30 戸。道路 六手八幡神社横ほか 3 件。物置 約 7 件。ビニールハウス倒壊多数。六手公民館の一部破損は自主修理。六手八幡神社本殿、神庫、参集殿の一部破損。
- ▼皿引・・・道路三ヶ所。住宅母屋 1 戸。神社一部瓦破損。
- ▼尾車・・・住宅屋根破損 8 戸。物置破損 3 戸。自治会館の屋根一部破損。神社屋根一部破損。山林崩落など倒木多数。
- ▼草牛・・・道路（倒木 3ヶ所、土砂崩れ 2ヶ所、路肩の崩落 2ヶ所）。住宅（トタンや瓦が飛散）。青年館の窓ガラスや瓦破損。神社が倒木により下棟破損。
- ▼馬登・・・道路の倒木で通行不可有り。住宅の瓦が飛散 16 戸。強風により屋根の一部が剥離。
- ▼大山野・・・道路は倒木 5ヶ所、のり面崩落 2ヶ所。住宅は屋根崩落 5 戸、物置等多数破損
- ▼山高原・・・瓦の飛散。庇の破損。家屋に倒木。大イチョウの枝が折れて落下。
- ▼作木・・・床下浸水 1 戸。崖崩れ 8ヶ所。道路への土砂流入 2ヶ所。倒木多数で一部は道路に倒れかかった。強風による屋根被害 5 戸。

- ▼周南公民館・・・ゲートボール場の小屋が全壊、弓道場の戸が飛散、裏山の木が多数倒れ遊歩道が通れなくなってしまうたり、南山荘の屋根に倒れ込んでしまった。

- ▼周南地区の小・中学校・・・台風の影響により、周南小学校は 4 日間の休校、周南中学校は 3 日間の臨時休校となった。



六手八幡神社のご神木が倒木（六手）
撮影：葭川典昭氏



六三橋の河川増水（六手）
撮影：川俣正明氏



君津市指定文化財の建曆寺阿弥陀堂の
屋根が破損（浜子）
撮影協力：能城清氏



薬王寺の南側付近の道路が倒木により
寸断（馬登） 撮影：鈴木照雄氏



土砂崩れ（小山野）
撮影：鈿持壽志氏



濱田重工独身寮のベランダ
撮影：岡村弘幸氏



強風により瓦が飛ばされる家が多かった。瓦修理の様子
撮影：釧持壽志氏



屋根の修理が追いつかず、ブルーシートで養生する住宅が多かった
撮影：釧持壽志氏



周南公民館裏山の南山荘に倒木
裏山の遊歩道も倒木多数



周南公民館のゲートボール場の小屋
が強風により全壊

台風 19 号の通過

台風 15 号の影響が残る中、台風 19 号が 10 月 12 日に関東を通過した。11 日 13 時に周南公民館を含む 11 施設が「自主避難所」として開設。14 時に警戒レベル 3「避難準備・高齢者等避難開始」情報の発令。12 日 4 時 29 分に波浪警報、6 時 41 分に大雨、暴風警報が発表。13 時 24 分に【警戒レベル 4】避難勧告を発令。当初から開設されていた多くの避難所では避難者にあふれ満員となってしまう、避難所が追加され最終的には 17 施設で避難所が開設された。

周南公民館では約 50 名の方が避難され一夜を明かした。周南地区では台風 15 号程の被害は無く、台風が通過した翌朝には避難された全員が自宅に帰られた。

今回の台風では大雨の恐れがあるため、地域の消防団が河川の見回り、避難の呼びかけ、注意喚起のため、台風が迫り強風雨の中、地域の見回りをされた。また、各自治会では、地区の見回りや被害状況等の確認をされていた。

避難所への避難者数から見て取れるように、台風 15 号の経験から早めの避難、自宅での備蓄等、災害に対する意識は以前よりも高まっているようだった。

4 被災中の生活

台風15号では、停電、断水や、停電の影響で君津市内を含む千葉県内の広範囲でインターネットの光回線や携帯電話の通信障害が発生した。これらの影響により長期間に渡り不自由な生活を強いられた。また、台風が通過した9月9日～11日の最高気温（気象庁発表による木更津観測所の記録）は32℃を越え、エアコンが無い中での生活は乳幼児や高齢者にとっては非常に過酷な状況だった。市内の店舗では、食材や災害対応品が不足し、数日間はどこに行っても手に入らない状況にあった。食材を求めて移動しようにも、停電の影響によりガソリンスタンドの給油が出来なくなってしまった店舗がほとんどで、ガソリンが手に入らない状況にもなってしまった。

被災中の生活は、各家庭様々なため、可能な限り多くの方の生活状況を記録するためアンケート調査を行った。周南小学校と周南中学校の保護者、周南公民館の来館者、職員や館報編集委員の知り合い等、声をかけアンケート調査を行った。特に多かった意見や特徴的な内容を抜粋し下記に掲載した。また、巻末資料にはご協力いただいた309名の方の意見を掲載した。

【被災中はどのように過ごしていましたか？】

- ①車中で涼んだり、TVを見て情報収集、携帯電話の充電等していた
- ②停電、断水の無い、市外・県外の親戚や知人の家に避難
- ③熱中症を予防するため、暑さ対策（水遊び・冷却シート活用等）をしたり、涼しいところへすごしたり、水分補給に気をつけて過ごした
- ④食料や水を手に入れるため開いているお店を探した。ガソリンスタンド巡りも。
→台風通過直後は、気温が上昇したため暑さ対策に困りました。今回の被災状況では、様々なことができる車が活躍したようです。

その他にもこんな声も・・・

・周りの人と助け合いながら過ごしていたので困ったことは無かった・自宅周辺の様子を子どもと見て回り災害について考えた・子どもたちはトランプ、カードゲーム、読書等、電気に頼らない遊びをしていた・3日間発電機を使用した・水は井戸水を汲みに行ったり給水車よりいただいた。

【情報収集・発信はどのようにしていましたか？】

- ①インターネット・SNSを活用。自宅周辺が圏外だったため電波のつながる場所を探した
 - ②ラジオや車の中でTVを観た
 - ③近所、近隣同士、会社で情報交換
 - ④市の防災無線・メール配信（防災）サービス・ホームページ
- やはりインターネット等は圧倒的に多かったものの圏外が続いたため苦労したようです。TVやラジオでは地域の細かい情報を得られず。人づて情報は正確性に欠けることもあるため判断が難しいことがあるものの、困っていることに即した情報が得られたようです。また、普段話さない近所の人とも話したりすることで助け合えたりできたので、日常的なコミュニケーションの大切さを感じた方もいるようです。
- 市からも様々な方法で情報発信がされました。その活用方法には様々な意見が寄せられ検討すべき余地もありましたが、市の支援情報がまとめて確認することができました。特に電波が繋がってからは「君津市のメール配信サービス」は役に立ったようです。みなさんもこの機会に登録してはいかがでしょうか？

【無くて困ったことは？】

- ①情報収集関係（圏外。必要な情報を得られない。TV・ラジオが無い等）
- ②ガソリン
- ③市内のお店がほぼ閉店

→情報を求めている方が多かったようです。どのように動くか判断する基準になるため、早く正確な情報を得ることが重要です。ではどのように情報を得ればよいのでしょうか？インターネットから得るには、通電状況に影響され電波がないとできません。人から得るには、日頃からの隣近所付き合い大切です。地域で伝える仕組みは、自治会等の地域コミュニティの構築が重要です。市の情報から得るには、行政が市民に発信する方法や仕組みづくりが重要です。

こんな声も・・・

・自宅がオール電化で困った・学校や保育園等が休みになったものの親が仕事のため子どもだけで留守番させることや、子どもを連れて出勤した・子どもが小さいので離乳食はすごく困りました・手洗いで洗濯をした

【あってよかったもの・今後備えたいものは？】

- ・非常食、水
- ・カセットコンロ
- ・ランタン（室内を広く照らせるため）、懐中電灯
- ・発電機
- ・ラジオ
- ・シガーソケット充電器（車で充電するための道具）
- ・ガソリン

【その他、自由回答として様々な意見や感想があげられました】

- ・見通しがつかなかったため、先の計画を立てて生活することが難しかった。
- ・携帯（スマホ）で情報を得ることが多いため情報収集に本当に困った。
- ・防災無線が聞き取りづらかった。身近なところで情報を得られるシステムがあると良い。
- ・全国から復旧作業をする電力会社の車がたくさん停まっていて作業員の方もたくさん見かけました。市役所にも全国の自治体や自衛隊から応援に来てくれて、いろいろな人たちのおかげで日常を取り戻すことができたと思うと感謝でいっぱいになります。
- ・多くのことを学ぶことができました。備えることや電気・水等の資源の大切さ、遠方の親族やご近所さんの支援の温かさ、家族の協力や命のありがたさ。とても貴重な体験でした。いつくるかわからない地震にも家族で話し合い備えたいと思います。

周南公民館主催事業「台風被害から学ぶ ママさんの情報交換会」

台風15号の影響が少し落ち着き、これまでの生活に戻りつつある頃、わんわん学級（幼児家庭教育学級）やのらりーず（家庭教育学級）の参加者が、乳幼児の子どもを持つ親同士で、台風で被災したときに、どのように過ごしたのか？災害時の豆知識等の情報交換会をしたいという声が寄せられ、情報交換会を実施。日程設定時は思いもよらず、その夜から台風19号が関東を通過する予報だった10月11日の開催となった。

小さなお子さんがいる家庭では、子どもの体調管理、ミルクや離乳食の備蓄等、困ったことや心配事や悩みが多く出され、ざっくばらんに意見交換がされた。「備蓄をしないといけない」「防災の対策をしないといけない」と思っている、漠然としていたけれども、いろんな人の経験談を聞いたり話し合うことで、家庭で何をどのように備えていけば良い

か、明確になってきたようだった。出された意見は下記の通り。

[被災中、どう過ごしたか]

- ・1～3日自宅で過ごし、ライフラインが止まっていない実家や親戚宅（袖ヶ浦、千葉、横浜、逗子、東京）に避難した。
- ・ライフラインが止まっていない友人宅（木更津）に避難した。
- ・日中は木更津や川崎の停電していないエリアのショッピングセンター等で過ごし、夜だけ自宅で過ごした。

[日中の過ごし方、暑さ対策]

- ・日中は外でずっと遊ばせていた。
- ・お風呂場で水遊びをさせた。／外でプールをさせた。
- ・冷えるタオルを首に巻かせた。
- ・夜は日が落ちたらすぐに寝てしまった。
- ・夜間、暑さで子どもが起きるので一晩中うちわであおいだ。
- ・パンチングで冷えるもの、手動のファンを備えたいと思った。

※防災知識

「寒いときは濡れるな、暑いときは濡らせ」

[停電中の食事／離乳食／ミルク]

- ・麺類ばかりになってしまった。
- ・夜は暗いので車で食べた。
- ・電子レンジ仕様の冷凍食品は湯せんより蒸かすと良い。
- ・冷凍の離乳食が全部だめになり困った。今後のため常温保存の離乳食を備えた。
- ・液体ミルクを初めて飲ませたところ、後日湿疹が出た。防災品は事前に試しておかなくてはいけないと思った。

[洗濯]

- ・風呂場やバケツで子どもに足ぶみさせて洗った（遊び感覚）
- ・しぼるのが大変だった。
- ・こまめに洗って溜めないことが大事だと思った。
- ・普段の洗濯洗剤で手洗いしたところ肌がかぶれてしまった。手洗い用の洗剤を備える必要があると感じた。

[衛生]

- ・水風呂をした

- ・介護用の体拭きで拭いた
- ・鍋でお湯を沸かし、ぬるま湯を作って体を拭いた

- ・エコキュートは停電でもお湯が使えるようだ。
- ・ペットボトルに穴をあけて、シャワーのようにした（節水にもなる）

[トイレ（断水したところ）]

- ・長期化しなかったため、お風呂にためた水で対応できた。
- ・簡易トイレを使うことになった場合は、ペット用の砂が吸水がよく安価で使える。

[情報収集]

- ・停電中は電波もなかった。
- ・味楽団の前の通りは電波が入ったようだった。
- ・被災当初は、ラジオでもあまり情報は流れていなかった。
- ・袖ヶ浦市役所周辺は、停電に強いようだ。
- ・携帯の電波塔は停電後しばらく（24時間程）は蓄電池で稼働するので、すぐに安否連絡をすると良い。

[あってよかったもの、備えたいもの]

- ・100均に、単三電池で単一電池にできるものが売っていた。
- ・生協の配達で使われているような発泡スチロールが、保冷の役に立った。
- ・高性能のクーラーボックスを備えたい。（イエティ）
- ・懐中電灯にもなるフットライトがよかった。
- ・発電機（ソーラーは放電するので、放電しないもの。うるさくないもの）
- ・ペンダント型のライト。（ヘッドライトより使いやすかった）
- ・懐中電灯は、マキタのライトがよかった。
- ・モバイルバッテリー／車載充電器

[困ったこと]

- ・停電中に熱、嘔吐があり、病院がわからなかった。
- ・断水したあと、一週間ほど茶色がかかった水が出た。（ペットボトルにためて見ると、汚れが沈殿するのでわかる）飲料に適さないことが広報されず、不安だった。

5 災害に備えて

災害はいつ起こるかわかりません。普段から備えておくことが大切です。ここからは君津市が公開している情報をまとめました。

災害関連情報

・防災ハンドブック



地震、津波、火災、風災害への備えと災害発生時の対応など、家庭や地域における防災対策をまとめた「君津市防災ハンドブック」を活用し、災害に対して正しい知識を持ち、いざというときに適切な防災行動がとれるようにしましょう。

市役所6階危機管理課、または各行政センターの窓口で配布しています。また君津市のホームページでも確認することが可能です。

・ハザードマップ

君津市では洪水・地震・津波のハザードマップを作成しています。いざというときに備え、自宅や職場の状況を確認しておくといいでしょう。

洪水ハザードマップ・・・市内の河川がはん濫した場合を想定した浸水範囲と浸水の深さを示している。問合せは管理課。

地震ハザードマップ・・・市周辺で発生のおそれがある地震を想定し、震度を示した「揺れやすさマップ」と、建物被害を相対的に示した「地域の危険度マップ」を基に、地震対策に関する情報を記載。問合せは建築指導課。

津波ハザードマップ・・・浸水のおそれがある地域・避難場所や、津波から円滑に避難し、生命・身体を守るための注意事項などが記載。問合せ先は危機管理課

・周南地区の指定緊急避難場所

指定緊急避難場所とは・・・津波、洪水等による危険が切迫した状況において、住民等が緊急に避難する際の避難先として位置付けるものであり、住民等の生命の安全の確保を目的とする場所や施設。

施設・場所名	住所	連絡先	対象とする異常な現象の種類				
			洪水	崖崩れ、土石流及び地滑り	高潮	地震	津波
周南中学校	宮下 1-4-1	52-0624	○	○	○	○	○
周南小学校	宮下 2-25-5	52-0259	○	○	○	○	○
常代保育園	常代 2-15-1	52-7000	○	○	○	×	○
周南公民館	大山野 26	52-4915	○	○	○	×	○

・周南地区の指定避難場所

指定避難場所とは・・・災害発生のおそれがあり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくな

った住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設。

施設・場所名	住所	連絡先
周南中学校	宮下 1-4-1	52-0624
周南小学校	宮下 2-25-5	52-0259
常代保育園	常代 2-15-1	52-7000
周南公民館	大山野 26	52-4915

災害時の情報収集について

今回の台風災害では、情報を得るために苦労された方が多くいたようです。一つだけでなく様々な方法で情報を得られるように確認をしておくと思いいます。

・防災行政無線

防災行政無線は、地震や風水害、大規模災害などの防災に関する情報を屋外拡声器（スピーカー）から無線放送でお知らせし、いち早く伝達するシステムです。屋外拡声器（スピーカー）は、市内 212 か所に設置しています。もし、放送を聞き逃した場合は、『防災行政無線テレホンガイド』で電話機でも聞くことができます。

・防災行政無線テレホンガイド

防災行政無線で放送した内容を、電話機で自動応答により確認することができます。電話番号は、0120-49-4133（フリーダイヤル-シキウ-ヨイミミ）です。携帯電話などに番号を登録していただくことで、より活用しやすくなりますので、是非ご登録ください。
※録音された内容は、一定時間で消去されます。

・メール配信サービス

君津市では、防災、犯罪・不審者情報などをお届けするために、『君津市メール配信サービス』を行っています。文字で受信できますので、内容がよりわかりやすい場合があります。

市からの情報を選択して受信することができますので、必要に応じて欲しい情報を選ぶことができます。

登録に関する情報は、君津市のメール配信サービスのページから確認できます。

※原則、防災行政無線で放送する内容と並行して配信しています。



・君津市のホームページ

災害時は様々な災害関連情報が掲載されています。インターネットが使用可能でしたら確認していただくと詳細な情報を手に入れることができます。

家庭で備えておきたいこと

災害はいつ起こるかわかりません。普段から災害に備えておくことが重要です。

確認しておきたいこと

- 非常備蓄品をそろえている。
- 市や地域の防災訓練に参加している。
- 家族が合流する場所を決めている。
- 本棚やテレビなど家具の転倒防止をしている。
- 避難の支障にならないように整理整頓している。
- 家族と災害時の連絡の取り方を、日頃から話し合っている。
- ペットボトルに水を溜めたり、浴槽に水を張るなど断水・消火対策をしている。
- ご近所で助け合えるように、日頃から声をかけあっている。

非常時持ち出し品 最低限そろえておきたいもの

- 懐中電灯 携帯ラジオ 非常食・水 貴重品（多少の現金、通帳、印鑑、保険証など）
- 救急医薬品（ばんそうこう、常備薬など） その他（ヘルメット、下着類、軍手、ライター、ウェットティッシュなど）

非常用備蓄品 災害後に備えるために

- 水（一人一日3リットル 飲料水だけでなく生活用水含む）
 - 食料（缶詰、レトルト食品、アレルギーなどがある場合はその事情にあった食料品）
 - 卓上コンロ、カセットボンベ
 - その他（毛布、寝袋、簡易トイレ、使い捨てカイロなど）
- ※備蓄は最低3日分、推奨は1週間分です。

※上記は一例です。個人によって必要なものが違ってきます。

地域でできること

自分自身の身を守る「自助」が第一ですが、近所の人たちと協力しながら地域の安全を守る「共助」も必要です。自主防災組織は、地域コミュニティの力が発揮される典型的な共助による組織です。

日頃から地域の様々な活動に積極的に参加して、地域の人たちとコミュニケーションを取り、要援護者がいる家庭や地域の人たちの状況を把握し、災害時における各人の役割を明確にし協力体制を作っておくことが大切です。

自主防災組織の結成

地震などによる大規模災害のときは、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発火災などで、消防や警察など公的機関の到着が遅れ、救助に時間を要する場合があります。

そのようなときに頼りになるのは、地域の皆さんが団結して防災活動を行う「自主防災組織」です。

家族と地域が顔見知りになることで、互いのいのちを救い、助け合うきっかけになりますので、一人ひとりが自助・共助という自覚及び連帯感をもち、設立するには一人でも多くの方々が組織の一員となるよう啓発し、地域の防災力の向上に努めましょう。

自主防災組織を結成した団体には、初期活動に必要な防災資機材を交付します。（発電機、投光器、リヤカー、救助資機材、担架、メガホン、毛布、救急セット等）

「自主防災の組織づくり」

自主防災組織の大きさに定まったものではありませんが、毎日の生活の中で顔見知りであって、お互いの連帯感及び組織活動が効果的に行える大きさが適当です。

防災のための集まりも、地域のコミュニティ活動の集まりも、住民皆様の活動であることには変わりありません。

自治会を母体として、「防災」を主目的とした「防災組織」をつくるのが、一番現実的です。

わが家・わがまちを災害から守るためにも、自主防災組織の結成が期待されています。

「自主防災組織の役割」

災害時にもっとも効果的に活動するためには、誰が何を受け持つかを決めておく必要があります。

一般的に次のようなことが考えられます。また、地域の実情に応じた役割を考えることが大切です。

- ・ 防災機関との情報交換や地域住民への情報伝達
- ・ 火災の発生防止や初期消火
- ・ 地域住民の安否の確認
- ・ 地域住民が安全に避難するための誘導
- ・ 障がい者、高齢者、妊婦、乳幼児など災害時要配慮者への援助
- ・ 簡易な工具を使用しての救出や負傷者の救護
- ・ 救援物資（食事等）の配布

※令和元年12月1日時点で、周南地区での自主防災組織は、大山野自主防災会、宮下自主防災会、常代自主防災会、草牛自主防災会、六手自主防災会が設立されています。

6 おわりに

これまでも大震災が関東でいつおきてもおかしくないと言われていましたが実感無く過ぎてきた方も多いのではないのでしょうか。今回の台風災害で、千葉県（君津市）でも災害とは無縁の地域ではないことに気づいたというお声もいただいています。

自然の力はとても大きく、個人では対応しきれないことも多くあります。まずは家庭での備え、そして地域で備えをどうしていくかが重要だと思います。今回の災害でも隣近所の方との支えあいに助けられた方も多くいるのではないのでしょうか？

今回は台風による、強風・豪雨（水害）被害が主でしたが、今後、どのような災害に見舞われるか分かりません。今一度、家庭や地域で有事に備えて話し合いをしていただく、きっかけになれば幸いです。

資料編

台風15号の直後に地域の方からアンケートを実施しました。合計で309名の方にご回答いただき結果は下記の通りです。

※一部、言い回しの修正や、類似した回答は統合しています。回答の右側に記載した数字は回答数になります。

1. 自宅や周辺の状況

○周辺

- ・道路の冠水 2
- ・どこも渋滞だった
- ・電線切断 5
- ・停電の復旧が遅かった
- ・倒木（特に杉） 多数
- ・倒木により道が寸断 6
- ・どこのお店も閉まっていた
- ・鉄骨が飛んできた
- ・看板が飛んでいた
- ・ごみステーション破損
- ・アンテナ破損 4
- ・電柱が倒れた 2
- ・自動販売機が倒れた
- ・近所の道路が冠水 5
- ・郡のセブンイレブン前が冠水 2
- ・家（六手）の前の交通量の多い道路が冠水したため、家族で排水溝のごみを熊手で取り水を抜いた。
- ・信号がつかなくて、大変、危険、怖かった。 4
- ・信号の向きが変わった 2
- ・農作物がぐちゃぐちゃに
- ・ビニールハウスのビニールが飛んだ
- ・六手八幡神社の神木が倒れお祭りが中止

○建物

- ・自宅の破損
- ・ベランダの床材が飛んだ 3
- ・雨漏り
- ・外壁がはがれる
- ・網戸が飛んだ

- ・玄関タイルが割れた
- ・上げ裏に穴が空いた
- ・停電により電動シャッター、カーテンが動かず室内が暗かった
- ・雨どいの破損 4
- ・排水溝に葉や草が詰まり 3 （部屋に水が入って来そうなほど水が溜まってしまった。雨漏りした）
- ・窓ガラスが割れた（散乱） 9
- ・屋根破損 4
- ・瓦が飛んだ、ずれた 1 6
- ・物置小屋・ガレージ等が飛んだ、ずれた、壊れた 1 5
- ・トタン屋根や瓦の飛散 多数
- ・カーポートが飛んだ 2 1
- ・門が壊れた
- ・フェンス破損 1 2
- ・家の外に出る道が塞がれた。車も出せず避難できなかった。
- ・車に傷（ガラス破損等） 1 3
- ・外に置いておいたものが破損、飛ばされた（バスケットゴール、植木鉢等） 2
- ・エアコンの室外機が飛んだ 2

2. 被災中の過ごし方

ー場所ー

- ・自宅 1 6
- ・避難所で過ごした
- ・（停電、断水の無い）市外・県外等の親戚・知人の家に避難 2 8
- ・暑くて寝苦しかったので職場に泊めてもらうこともあった
- ・一日のうちの一時的に、通電しているところに行って過ごした 7
- ・車中で涼みながら（特に暑い時間帯。車中泊も） 3 4
- ・実家に子どもを預かってもらい過ごした
- ・停電のため会社が休み
- ・店でマイクロバスをキャンピングカーのようにして過ごしていた。

ー暑さ対策ー

- ・子供たちは水遊び（井戸水を使用も）をして熱中症予防 6
- ・日陰を探して過ごした 2
- ・水分補給に気をつけた 4
- ・日中は家の中で遊んだ 2
- ・暑さ対策として寝るときに、アイスノン（氷のう）を使用した。うちわを使用 2

・ガソリンが無く車の冷房が使えないので、うちわや冷却シートなどで暑さに耐えた。飲み物も足りなかった。

－灯り関係－

・早寝早起き（明るいうちに行動） 8

・懐中電灯で過ごす 4

・ろうそくをつけて過ごす

－電気が使えないことで－

・洗濯物は手洗い 5（昔の人は大変だったな、と実感）

・風呂は水風呂（水シャワー） 1 3

・カセットコンロでお湯を沸かして風呂・シャワーに入った 4

・銭湯に行った

・発電機を使い、冷蔵庫、扇風機、電気等、生活に必要なものは動かせた

・コインランドリーに行った 3

・スマホの充電ができないので公民館に行った 2

・太陽光発電のおかげで家電（エアコン、冷蔵庫、扇風機、TV）をつけることができた。

4

－調理－

・ガスなので調理に困らなかった

・食事は非常食や冷凍食品を食べていた

・冷蔵庫にあったものでなんとかやり繰りした

－物資の確保－

・日中は生活用水を確保するため、湧き水をくみに行き運搬作業

・ガソリンが無くスタンド巡り

・ガソリンが無くなるのが怖いので自宅で過ごした

・水をもらいに公民館に行った

・開いているお店を探して回った 5

－過ごし方－

・市等に連絡をして、家で被災した片付けをしていた。発電機を使用し、電動のこぎりで倒木除去や暑さ対策で扇風機を使用した。

・周りの人と助け合いながら過ごしていたので困ったことは無かった。

・近所の子供たちと毎日遊んでいた

・自宅周辺の様子を子供と見てまわり災害について考えた。学校まで歩いて危険な所を確認した

・子供は電気に頼らない遊び（トランプ、カードゲーム、読書等）を読んでいた 7

3. 情報収集・発信の方法

ー公共的な情報配信ー

- ・車の中でTV・ラジオをみて 30
- ・新聞 2

ー携帯の電波に頼るものー

・電波のつながる場所を探した 36 (電波がつながるところでしか受信できなくて困った。貞元は電波あり。キッズ携帯使用できた。)

- ・公衆電話 2
- ・ツイッター 3 (情報が早かった。間違った情報もよく流れていた)
- ・ネット・SNS (スマホ等。Wi-Fiをつないだ) 22 市のHP等
- ・ラジオ 16 (手回しラジオを使用した方も。)(ラジオでは市の情報が入らず困った。

後にかずさFMで地元の情報が発信されていることを知った。これを防災無線で教えて欲しかった。)

- ・ライン・メール等で知人と情報交換 16
- ・市 防災メール 15

ー市の広報ー

・防災無線 25 (とても役に立ったという意見と、もっと情報を流して欲しいという意見)

ーコミュニティーー

- ・会社で情報収集 12
- ・近所同士、近隣同士で情報交換 24

→近所のネットワークの大切さを痛感した。普段話さない人と話した

4. 無くて困ったこと・もの

ー電気関係ー

- ・電気 21
- ・井戸水のくみ上げのため停電で困った 2
- ・オール電化のため困った 6
- ・モバイルバッテリー 5
- ・乾電池 8
- ・太陽光発電

ー灯りー

- ・懐中電灯 5
- ・明かりが無くて、夜、子供が怖がっていた
- ・ろうそく →火事の事例も・・・
- ・ランタン 4

ー食料・調理・保存関係ー

- ・食料（非常食、米） 19
- ・氷 6
- ・保冷剤
- ・クーラーボックス
- ・ガス 2
- ・カセットコンロ 8

ー気候に対応するものー

- ・お湯 2
- ・お風呂
- ・エアコン 6
- ・電池式扇風機 3
- ・暑さをしのげるもの
- ・夜暑くて眠れなかった。（保冷剤も使えない、冷却シートも一瞬冷たいだけ）

ー情報関係ー

- ・ガソリン 28（買い物にいけなかった。移動して無くなった。スタンド閉店 or 行列）
- ・情報が無いこと 9（ロコミで店の情報や支援情報を知ったが、それを避難所や自治開館などに掲示してくれたら情報収集の場になりよかったと思う。市の支援情報を知らなかった2）
- ・防災無線が聞こえない 3
- ・ラジオ 8（電波が悪くネットが使えないため、TV、ラジオ等が無く情報収集に困った）
- ・電波、ネット回線 14
- ・電話が繋がらない 2
→安否確認ができない。会社に連絡ができない。救急車や警察に連絡できない。

ー生活に関することー

- ・水道、水が使えない（洗濯、入浴、トイレ、手洗いができない） 6
- ・洗濯を手洗い
- ・コインランドリーが混んでいた
- ・トイレ
- ・市内のお店がほぼ閉店。 5
- ・遠くへ出かけたくてもガソリンが足りなかった。
- ・学校、学童、保育園が休みの中、仕事に行かないといけなかった。（兄弟で留守番。子どもを連れて出勤） 3
- ・断水中は水道から泥水（茶水）や落ち葉が出てきた
- ・ごみの回収が無かったので周辺で散乱していた

- ・現金
- ・ブルーシート
- ・身内が1人もいなかった

5. あってよかったもの、今後備えたいもの・こと

ー食料・調理関係ー

- ・非常食 多数
 - ・乾物（パスタ・そうめん・レトルト食品・缶詰・カップ麺・簡易のごはん・もち・お菓子）
 - ・無洗米（水の無駄が無い）
 - ・水と水で調理できる食料
 - ・水（飲み物全般） 4 5
 - ・500ml のケースで用意しておいて良かった
 - ・湧き水 3
 - ・氷 2
 - ・ウォーターサーバー
 - ・ウォータージャグ
 - ・クーラーボックス 4
 - ・保冷剤 6
 - ・土鍋 5 （ご飯が食べられる）
 - ・やかん
 - ・ガス（プロパンガスの設備） 7
 - ・ガス釜（お米）
 - ・ガス（カセット）コンロ 3 1
 - ・子どもの飲み物、食べ物があって良かった
 - ・冷蔵庫

ー電気関係ー

- ・発電機 2 0
- ・蓄電池 1 1
- ・太陽光発電機（日中電気が使えた） 1 3
- ・ソーラー充電器 2
- ・乾電池 1 6
- ・モバイルバッテリー 9 （ソーラー式ののものも）
- ・シガーソケット USB 充電器 7

ー灯りー

- ・懐中電灯 3 1

- ・ランタン 2 5 (懐中電灯以上に広範囲を照らせるため)
- ・卓上ランプ
- ・ろうそく 3
- ・ソーラー式ライト
- ・ヘッドライト (両手が使えて便利) 5

ー生活関係ー

- ・ガソリン 1 1 (携行缶備蓄。車のガソリン満タン等)
- ・充電、電池式、携帯扇風機 5
- ・車 (移動手段。涼むため。携帯の充電等) 5
- ・ブルーシート 2
- ・ポリタンク 1 0 (お湯を入れ、シャワーを付けてお風呂代わりに便利だった。給水用。等)

- ・お風呂にためた水
- ・オムツ
- ・防災グッズ一式
- ・非常用トイレ 6
- ・トイレットペーパー
- ・カップ
- ・PC (子供に DVD を見せていた)
- ・防災グッズ一式 2
- ・キャンプ用品 2
- ・ボディーシート
- ・タオル
- ・避難所

ー気候対策ー

- ・冷えピタ 2
- ・うちわ 3
- ・湯たんぽ、ストーブ、保温シート (冬季)

ー情報関係ー

- ・ラジオ 1 3 (手回しだとなお良い)
- ・防災ラジオ
- ・黒電話 (通話が可能だった)

ー備えたいことー

- ・お風呂に水を貯めておく 5
- ・ガソリンを常に満タンにしておく 8
- ・電池、充電式の扇風機 2

- ・携帯電話を充電しておく
- ・凍らせたペットボトルを常にストックする
- ・ローリングストックを実践しようかと思う。
- ・体調維持に必要な情報（病院関係）を知っておきたい

今後の備え

- ・電気が無くても生活できる術を身につけたい

6. その他

- ・地域での安全確認はどうなっているのか知りたい。→役所？自治会が行う？
- ・断水地域では、ラップ、紙コップ、紙皿、割り箸、コンビニのスプーン・フォーク（洗えないため）
- ・市からのメールが来ていたが、電波が悪く確認できなかつたため情報が得られなかつた。各避難所等で無料 wi-Fi スポットがあると助かる。でも停電時は難しいでしょうか？
- ・携帯電話など使えず情報もあまり入ってきませんでした。市役所内の掲示板にあった市内の情報にコンビニや商店、公民館などもっと身近な場所に掲示していただけたらと思いましたが。営業している店やガソリンスタンドの情報も欲しがっていた。
- ・怪我等が無いと救助が後回しになってしまい困った（台風被害により自宅前の道を塞がれ車を出せなかつた方）
- ・TVで放送していても停電なので見られなかつた。
- ・君津市の8割が断水するなど、嘘の情報が流れて不安だった
- ・子どもが体調を崩し、病院を探したがどこもやっていなかつたため、県外の実家に避難した。病弱な方、障害のある方が優先的に休める場を災害時すぐに開設されることを願います。またそれを防災無線で広く知らせて欲しい。また、公民館（避難所）は災害時、電気、水道は通っていたのか？それを知らせて欲しかった。頼りは、防災無線とラジオだけ（人によっては防災無線だけ）。今後、防災無線の有効活用を願います。
- ・車で移動ができない高齢者や独居老人が心配。
- ・暑かつたので子どもの体調が不安だった。夜、暑さで子どもが寝付けないようだった。
- ・君津市の対応がわからなかつた。各地区を回って自治会長を通じて情報共有があつたのか不明。今までこの様な災害が無かつたので、君津市の対応がどうなのか、初動はどうだったのか、あの一週間はそれをすごく疑問に思った。
- ・今回の停電を経験してからは、常にガソリンを満タンにしている
- ・今回の台風を教訓に行政・自治体で発電機の準備、断水地域への早期特定・対策を行って欲しい
- ・まさかこの様な事態になると思ってなかつたので、事前の準備をもっとしておけば良かった
- ・避難所の案内をもっと早く開設してもらえると良い

- ・ただし情報を知ることができないと噂に惑わされてしまうので大変だと思いました。
- ・防災無線が全然聞こえない。何を言っているのかわからない。5
→各家庭に聞こえるように数を増やしてほしい等。最低限必要な情報を身近で得られるシステムを
- ・学校が休校かどうか防災無線でしかわからない日があった。休校時は、出来たら学校の門などに「休校」と張ってくれるとありがたい。(しかし、皆、被災しているのでそれがベストかわからない)
- ・上空に常にヘリコプターが飛んでいて防災無線が聞き取れなかった。
- ・電気も無く、携帯の電波も悪く、今回一番困ったのは正しい情報を収集することです。人づてに聞いた情報は正しいのか、誤った情報なのか判断できる状況でもなかったのも、なんでも鵜呑みにしていたと思います。また、防災無線が頼りだったが、全然聞こえなかったです。ラジオも場所によっては入らなかった上、流れてくるのは音楽ばかりだったので、聞くのをやめました。
- ・ガソリンスタンドの渋滞を目の当たりにして驚きました。今後は早めに給油することを心がけます。お風呂はペットボトルに水を入れて、太陽の光であたためて使いました。
- ・圏外のためメールの受け取りができず、学校の再開がわからなかったが防災無線で知らせてくれて助かった。
- ・ニュースで君津市の状況を知った県外の友人や親せきから物資が届いてとても嬉しかった。九州や西日本災害にあわれた方の苦痛が身にしみてわかった。これまで他人事でしたが、今後同じようなことが他の地域であった時にはすすんで協力をしたいと感じた。
- ・携帯（スマホ）で情報を得ることが多いため、情報収集には本当に困った。高齢でなければ避難所を利用することに戸惑いがあった。(今回は停電が主だったので)
- ・太陽光発電のある家では日中、洗濯、エアコンなど使用できたようだが、これから導入するには費用が掛かるので、停電時に困ったとしても現実的には無理。
- ・夜の寝苦しさがつらかったです。電気の大切さ、ありがたさが本当に身に沁みました。
- ・停電で情報難民となっていたので、自分たちのおかれた状況がよくわかっていなかった。私たちは車で好きなところに移動できたが、動くことができない人は本当に大変だったと思う。電気水道の無い生活は過酷すぎる。
- ・自家発電にて TV はつけられたものの、電波が無かったので地上波は観られなかった。停電が解消してから県内の被災状況を知ることになった。停電により一番知りたい人が、一番知ることができない状況になるのだと実感した。
- ・台風は予測がつくから良いけど、普段から防災グッズは点検したり補充をしたりするべきだと思う。
- ・信号がついていないと運転がとても怖かったので、停電時はすぐにつくように発電機などの備えをしてほしい
- ・市役所や公民館（避難所）で物資を配布していたが徒歩では行ける距離ではなく、ガソ

リンも無くて行くことができなかった。近所にも来てほしかった。

- ・もし断水をしていたら、とても過ごせなかったと思う。断水した場合の備えを考えたいと思う。

- ・ボランティアや自治会での活動の連携が充実すると良いと感じた

- ・子どもたちが不便を感じず楽しんでいたのがすくいでした。この教訓を生かして今後の災害に備えたいと思う。

- ・災害時こそ携帯電話が必要なので基地局の停電対策をして欲しい。

- ・君津市の初動は？木更津市の配給、炊き出し、入浴施設の情報が回ってきたが、君津市はどうなっているのでしょうか？

- ・電力さえあれば給油できるというスタンドが多かったように思います。県で備蓄している発電機を使用して給油することはできないでしょうか？移動する、情報を得る（カーナビのTV）、シガーソケットで充電、涼を取る等、車でできることはたくさんありますが、全てガソリンが必要です。給油の車列が考えられないくらい伸びていました。君津市内、周南地区は普段から車が無いと生活できません。停電時の給油体制について検討、配備していただきたいです。

- ・「今日中に復旧する」と放送があったものの復旧しなかったのは精神的につらかった。

- ・市や県の対応が遅すぎる。水の配給と同時に食料の配給もして欲しかった。今現在も県や役所の対応が遅くて困り果てている。

- ・東日本大震災のときに購入したランタンを久しぶりに使用したら壊れていた。防災のために用意しているものは定期的にチェックをして期限下切れがないか、壊れているものは無いか確認をした方が良いと思い知った。

- ・情報は防災無線を頼りにしていたが、風が強いとほとんど聞き取れず、すごく困りました。今後、何とか工夫して欲しい。食料や水の配布の情報が届くのがとても遅かった。

- ・すぐに食べられる物が君津市内では、初日午前でほぼ無かった（売り切れのため）

- ・停電も辛い、水が出ないのはかなり辛いと思った。普通の気持ちでいられるのも3日が限界だと思った。家も倒壊している人はもっとだと思う。口にするもの（飲料、食事）は早めに国等から対応して頂けたら、皆の不安も少しは抑えられて、色々な場所での混雑が少しは良かったのではないかと思います。

- ・防災無線で停電、断水している地域を詳しく教えて欲しい

- ・今回は想定以上の台風でしたが、家族も家も無事だったので、とても学ぶことができました。備えることや電気・水等の資源の大切さ、遠方に住む兄弟やご近所さんの支援の温かさ、家族の協力や命のありがたさ。とても貴重な体験でした。予報で備えることのできる台風に関しては十分な備えを心がけ、いつくるかわからない地震にも家族で話し合い備えたいと思います。

- ・学校の休校の連絡が最初はメールだったので、携帯が全く使えないときは困った。仕事をしているのでお弁当持ちは大変だった。市内の他の学校では弁当持ちではなかった。

- ・ある程度危険がなくなったら、地元を見限って遠出する勇気も必要と思った。
- ・被災期間が長期の地域もあったので、今後の対策を家庭や自治体（国）全体で早期に考えないといけませんね。
- ・炊き出しやお風呂支援、給水など始まるのが遅かったように思います。残暑の厳しい中だったし、こういったことは少しでも遅いと手遅れ感が強くなります。初日か2日目の早いうちから是非対応してもらいたいと思いました。今回の状況で、寒い冬だったら、もっと被害が大きくなってしまいう気がしました。一人ひとりの備えは大切ですね。
- ・自治会で備蓄倉庫を作ったほうが良い。

令和元年度 第46回周南地区文化祭特別展

令和元年台風15号被害から考える防災

2019(令和元)年12月 発行

編集・発行 君津市周南公民館

君津市大山野26 電話 0439-52-4915

資料・情報提供・協力

周南地区各自治会長 周南小学校・中学校保護者 館報ひろば編集委員会
その他アンケートにご協力をいただいた皆様

引用及び参考資料

君津市防災ハンドブック（君津市総務部危機管理課）
君津市津波ハザードマップ（君津市総務部危機管理課）
君津市洪水ハザードマップ（管理課）
君津市地震ハザードマップ（君津市建設部建築指導課）

令和元年度 第46回周南地区文化祭特別展

令和元年台風15号被害から考える防災

2019(令和元)年12月 発行

編集・発行 君津市周南公民館

君津市大山野 26 電話 0439-52-4915
